

# この一年を振り返って

2階西病棟婦長 益 塚 典 子

平成11年4月には、かねてからの念願であった2科混合の新病棟が増設されました。4科混合病棟の時には、困難を窮めた入院患者さんのベット確保も新病棟においては、入院予定の患者さんをお待たせすることなく、スムーズに稼働するようになりました。

冷暖房完備、個室（8室）、2人部屋、4人部屋で形成され、各部屋に洗面台設置と、環境としてもレベルアップしたと言えると思います。

看護婦20名、准看護婦4名、看護補2名、計26名の看護スタッフでスタートしました。

病棟目標を

- 1、入院生活が快適に送れる良い環境を整え、看護の充実を図る。
- 2、地域との連携を図り、継続した看護を展開する。

としました。

＜病棟における各委員会を設置＞

- 1) 教育委員会
- 2) 看護研究
- 3) 業務改善委員会
- 4) 環境整備委員会
- 5) 記録委員会
- 6) 申し送り委員会
- 7) カンファレンス委員会
- 8) 看護計画委員会

具体的な活動として、

- ・看護処置表、看護計画用紙の見直し
- ・透析室看護婦との合同カンファレンスの定例化（毎週火曜日）
- ・毎食前おしぼり配布（平成11年12月開始より）
- ・入院案内の見直しと作成

- ・入院時オリエンテーションについてのマニュアル作成
- ・体温表の見直し
- ・食事摂取量、便回数表の見直し
- ・申し送り短縮のためのマニュアル作成
- ・日勤も部屋担当制とし、遅出廃止
- ・月間目標を詰所会議で決定、評価（主に接遇、安全、環境整備について）
- ・新人受け入れについての検討
- ・勉強会実施

（疾患、接遇、死亡処置、呼吸器について）

私事ではあるが、約2週間の入院、手術を体験しました。この体験を通して、改めて実感した事がいくつかありました。

- (1) あたりまえの日常がとても尊いことである。
- (2) 提供される技術に個人差があり、それに伴い、苦痛の度合いが異なる事。
- (3) 患者さんは常に職員に注目し、緊張し、気を遣いながら生活している。
- (4) 患者さんのプライバシー保護がなされていない。
- (5) 患者さんは、入院生活という環境の中では言いたい事の何分の一も表現できていない。
- (6) 勤務中の職員の私語は不快である。
- (7) とても辛い時こそ、医療者の言葉、表情、態度、はたらきかけが大きな影響を与える。学びの多い1年でした。

次年度は、看護過程の充実、看護チーム体制づくりを中心にすすめていきたいと思います。患者さんを通して共に学び、支え合う職場づくりを目指したいと思います。

医師、看護スタッフの協力と情熱に深く感謝いたします。